

# 産業自治の幼児

珍しく組織の神戸印刷工会社

## 職工も選挙の上で

### 株主の中から決めて事業開始 娘や少年も混じる株主席

労働階級の理想とする産業自治といふことは一面幼稚な日本の労働階級の理想の下に於ては至極適当な希望と見られぬではないが最近頻りに労働階級の理想の問はずと唱へられた彼等の自覺は遂に此の理想を實現せしむるに於て遂に此の理想の一端を實現するに至つた。此の理想とは即ち神戸印刷工会社株式會社創立の事である。

神戸印刷工会株式會社は今春の同九月間、日曜公休の業務に服す組合總會の決議に基き九月ののである。此の選挙は出席株主の投票に基き、計りて愈々五百十九名(五二〇の中票數三十四日午後七時から新開地道徳義百五十七票(四八七の中)の優良會に於て創立準備會(實は創立)の費用選挙を行はれ、岩谷總會と見るべきもの)を開催し市商工部外一各會の下に約形式上名實共に創立を達成した二時間を経て開業されたが其

結果廿六名の職工の外に左の如き役員が選出された。  
社長久留山三、事務三谷吉吉、常務藤田次郎、取締役松井恒蔵、森田安治、監査役内田保男、同上田賢  
而して今井博士、賀川豊彦、野田代議士の如き人物を擁した久留山三氏は茲に始めて別居して居る。此の資本家會社の社長が今度社長として任ぜられた。勿論この社長は團體の代表として、工場を管理して何れも認め、そして諸議がまらば發議するし、又は株主總會を開いて諸君の公議に開き入道的態度を見る云々。この愉快な會社は株主一同から破るゝ許りの喝采を受けた。會社

處で組合當初の目的が産業自治の理想にあつたので株式は全部組合員から募集する確定つたが何分不景氣の折柄であり、且つ貧乏な職工同志の事にて募集の成績は當初程に思はしからず組合幹部奔走の末漸く三百廿一株の應募を見たのみなので止むべく定款の一部を改訂して組合の贊助員や友厚關係の人々即ち今井博士や賀川豊彦、小寺善吉、野田代議士又は丹下、中、森、等の市會議員達に宛る八百七十

几株を分配し且組合員への株式轉賣禁止と、大株主投票權の制限とで組合内に實權を握る形式で成立を見た。なほ疑ひもなく日本の労働者の財力の不充實を示現してゐる。  
さて廿四日の創立準備金には種々他の一般會社の夫れとは様様が異つて見られた。  
續々集まつて來る株主は何れも組合に屬する職工中には解雇工らしい妙齡な娘達もあれば徒弟らしい少年もあるといふ風である。即ち組合長が議長としての挨拶に

我等は産業自治と、鑒て資本家に要請したる處の實踐が及び大衆者救済等の三大理想の下に本會社を創立した。  
株主に向つて述べて、應て創立の経過報告定款の承認及變更等を討論可決し、終に役員及び従業員選挙を行つたが、此の従業員選挙も亦他に類例を異にした。遣り方で、會社の工場に於て部株主の中から選挙するので、選挙された職工は可及的回避せず、先づ初期職工の最低金七十圓、最高金百十圓(但し日割支拂標準の賃金で八時間(最初